

利賀っ子だより



R5. 2. 6

○ ミニ雪像づくりに向けて

地域の方のお誘いで、2月10日に小学校1年生から中学校2年生までの児童生徒で、ミニ雪像を作ることになりました。小中学生混合のグループ編成にするかどうかから相談が始まり、何を作るか、どのように作るかについて何回かに分けて話し合いました。

小学生は、「作り方が心配だから、中学生と一緒に活動したい。」「力持ちの中学生に助けてほしい。」という意見がほとんどでした。一緒に活動してもらうよう中学生にお願いするけれども、中学生にお任せではなく、自分のできることを見付けて活動してほしいと子供たちに話しました。

中学生との話し合いの時間、自分の意見を話す子供、出た意見を記録していく子供等、積極的に話し合いに参加している小学生の様子が見られました。図を示しながら具体的に話を進めたり、互いの意見の折り合いを付けながら話をまとめていったりする中学生に、雪像をつくること以外にたくさんのことを学ぶ機会になりました。



【この部分をどうするか決めよう。】

○ 相手に寄り添う



【遊び方の説明をします。ます・・・。】

2年生の国語科の学習「おにごっこ」で、本で調べた遊びについて順序よく説明するという活動があります。2年生の1さんは、「ごろごろかみなり」について調べました。調べた遊び方を自分でまとめた説明が正しく伝わるかどうかを確かめるために朝の会で全校の前で発表していました。

1さんの発表を聞いて、「はぁん。なるほどね。」「分かった。」「そういうことね。」等と反応する子供たち。何を目的にこの活動をしているのかを理解してのつぶやきだということが伝わりました。

「相手に優しい声をかける」が今年度の目当ての一つですが、それを子供たちの姿で見ることができました。

○ 「どうしよう」が前進の一步

掃除の時間、3年生のMさんが「どうしよう」と話しかけてきました。聞くと竹馬を整頓してもすぐに乱雑になってしまうとのことでした。Mさんは、なぜそうなるのかを考え、対になる2本をそろえやすいように書いてある番号をもっと大きく鮮明にすることを考えました。

「自分で課題を見付ける」ことも今年度の目当ての一つです。不便、不都合なことを見過ごさず、立ち止まっていくことが前に進むための第一歩だとあらためて思いました。

(高田 公美)



【これで よし】